

## 農林水産省食料産業局長賞

### 『私を変えた給食の時間』

愛知県安城市立安城南部小学校 六年一組 女子 早川 珠乃

事件が起きました。

「2年3組が大バットを落としてしまいました。余っているのがあれば2年3組へください。ご協力をよろしくお願いします。」

よくある事件。私は高学年として2年3組へといそぐ。大バットの残りをわたすと「ありがとう。」と言ってうけとってくれた。私はとてもうれしかった。うしろをふりかえると2年3組みんなと先生が大変そうに片づけをしていた。私も手伝いをしてあげたかった。けど私は勇気が出ず、その場からにげてしまった。それは、高学年とばかり遊んでいる私。小さい子のお世話は大好きだけど、おしゃべりやお手伝いをすると思うと「ドキッ」とする。なので私はにげてしまった。くやしかった。今の自分が少しきらいになった。でも今の自分を変えたい。変わりたいと思い、今度また同じ出来事が起きたら、何年生でも必ず片づけを手伝いしようと思い、教室の中に入った。

1カ月半後、始業式になり私は6年生。最高学年として、くいの残こらない1年間にしようと思ひ6年生になった。

3週間後、また事件が起きたというアナウンスが私の耳の中に入ってきた。自分を変えるチャンス。余った食かんを持ち、3年1組へと向かう。この前は大バットだったから少し大変なだけだけど、今回は食かん。とても熱くて、とても重い。やけどをしている人がいないか心配になり、3年1組へといそぐ。やっぱりとても大変そうだ。「でも…やっぱり…。」すると始業式の事が頭に入ってくる。

「くいの残こらない1年間。」私の足が1歩大きく動く。そうきんを両手に先生の方へ向かう。

「先生手伝いをします。」すると

「ありがとう。よろしくね。」と言われ、いっしょけんめいこぼしてしまった所をふきました。

「やったあ。自分が変わった。」そのしゅんかんはとてもうれしかったです。しかも私は「大丈夫?。」などの言葉もかけられるようになりました。なのでこれからも低学年に優しくせつしてあげたいです。最高学年としてのうれしさ。そして厳しさ。この経験を忘れずしっかりといただきます。「じちそうさまでした。」を気持ちよくこめていいたいです。